畑作・野菜・花き生産情報 第３号

令 和 ３ 年 ６ 月 １ ８ 日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎小麦の刈取適期は６月末からの見込みです。適期収穫に努めよう。
◎にんにくの生育は早まっており、収穫期も平年より早まる見込みです。収穫及び乾燥作業の準備を計画的に行い、適期収穫に努めよう。
◎高品質な花きの生産に向けて換気や遮光をこまめに行うなど、施設内の温湿度管理を徹底するとともに、病害虫の早期発見・早期防除に努めよう。

畑 作 物

１　小　麦

（１）生育状況

ア　開花期は、平年より２～８日早かった。
イ　稈長、穂長は全般的に平年より長く、穂数は平年より多い傾向となっている。

表－１　　小麦の出穂期、開花期

場所	年次	ネバリゴシ		キタカミコムギ	
		出穂期（月日）	開花期（月日）	出穂期（月日）	開花期（月日）
農林総合研究所（黒石市）	本年	5/16	5/25	5/17	5/27
	（平年差）	（4日早）	（2日早）	（5日早）	（2日早）
	平年	5/20	5/27	5/22	5/29
	前年	5/13	5/22	5/16	5/26
野菜研究所（六戸町）	本年	5/16	5/24		
	（平年差）	（4日早）	（5日早）		
	平年	5/20	5/29		
	前年	5/14	5/26		
つがる市（木造）	本年	5/15	5/22	5/18	5/26
	（平年差）	（4日早）	（6日早）	（3日早）	（4日早）
	平年	5/19	5/28	5/21	5/30
	前年	5/14	5/24	5/16	5/27
十和田市（相坂）	本年	5/16	5/22		
	（平年差）	（6日早）	（8日早）		
	平年	5/22	5/30		
	前年	5/16	5/28		

注）①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市（相坂）が生育観測ほの調査成績
②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去15か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去12か年(23年産（出芽不良）を除く)、つがる市(木造)と十和田市（相坂）の「ネバリゴシ」が過去19か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去25か年の平均値

表－２　小麦の生育状況（６月10日）

場所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）
農林総合研究所（黒石市）	本年	87.8	8.4	561	97.7	9.9	408
	（平年比）	(120%)	(111%)	(138%)	(116%)	(115%)	(121%)
	平年	73.2	7.6	406	84.5	8.6	338
	前年	66.4	7.1	413	77.4	8.5	258
野菜研究所（六戸町）	本年	97.4	9.1	743			
	（平年比）	(106%)	(110%)	(106%)			
	平年	92.1	8.3	701			
	前年	91.8	8.0	773			

（２）今後の農作業の留意点

ア　刈取準備

（ア）適期に刈取りできるようコンバインや乾燥調製施設を準備する。

（イ）効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

イ　適期刈取

（ア）刈取適期は６月末からとなる見込みである。穂数の少ないほ場ではこれより早まることも予想されるのでよく観察し、収穫が遅れないようにする。

（イ）刈取りは、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30％以下（穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態）になった頃をめどに行う。

（ウ）刈取りが早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび粒や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に収穫する。

（エ）倒伏や穂発芽した小麦は、仕分刈りを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。

（オ）農産物検査法の検査規格における赤かび粒混入限度は、0.0％であるので、収穫前に赤かび病の発生状況を把握し、罹病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。

表－３　積算温度による刈取適期の見込み

品種／地域	ネバリゴシ		キタカミコムギ		ゆきちから	
	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期
中　南	5/16	7/2～7	5/17	7/6～10	5/14	7/1
西　北	5/15	6/30～7/5	5/18	7/6～10	－	－
上　北	5/16	7/3～8	－	－	－	－

注）①出穂期以降の積算温度（「ネバリゴシ」：830～950℃、「キタカミコムギ」：900～1,000℃、「ゆきちから」：840～867℃）を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス（中南は黒石、西北は五所川原、上北は十和田）から計算（6/14現在）

②出穂期は、表－１及び中南地域からの聞き取り

２　大　豆

（１）生育状況

出芽期は、黒石市で平年並、六戸町で平年より３日早かった。

表－４　大豆の出芽状況

場　所	年 次	は種期 （月日）	出芽期 （月日）
農林総合 研究所 （黒石市）	本　　年 (平年差) 平　　年 前　　年	5/26 (1日遅) 5/25 5/26	6/5 (±0) 6/5 6/3
野菜研究所 （六戸町）	本　　年 (平年差) 平　　年 前　　年	5/14 (1日早) 5/15 5/15	5/22 (3日早) 5/25 5/28

注）①品種は「おおすず」
②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績
③平年値は、農林総合研究所が過去16か年（令和元年除く）、野菜研究所が過去14か年の平均値

（２）今後の農作業の留意点

ア　中耕・培土は、１回目は本葉２～３枚の展開期に初生葉のつけ根まで、２回目は本葉５～６枚の展開期に第１本葉のつけ根まで土寄せする。

イ　アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。

ウ　長雨に備え、明きょを設置するなど排水対策を徹底する。

野　菜

１　にんにく

（１）生育状況

ア　六戸町、田子町では、葉数は平年並～平年を下回っているものの、草丈、茎径、球径及び球重は平年をやや～大幅に上回っており、生育は早まっている。藤崎町、七戸町では、植付時期が平年より10日以上遅かったことから、地上部、地下部とも平年並～平年を下回っている。

イ　収穫期は、平年より早まると見込まれる。

ウ　病害虫は、春腐病、さび病が広く発生しており、一部地域で黄斑病やネギコガ幼虫による食害が散見される。

表－５　にんにくの生育状況（６月10日現在）

調査地点	年次	植付期(月日)	りん片分化期(月日)	6月10日					収穫期(月日)	備　考
				草丈(cm)	葉数(枚)	茎径(mm)	球径(mm)	球重(g)		
野菜研究所(六戸町)	本年	10/1	4/12	106.2	12.5	22.5	64.5	109.6		透明マルチ
	(平年比)	(1日早)	(8日早)	(107%)	(98%)	(113%)	(111%)	(134%)		
	平年	10/2	4/20	98.9	12.7	19.9	58.1	82.0	7/1	
	前年	10/1	4/11	103.9	13.0	20.4	58.2	83.7	7/2	
藤崎町福島(旧常盤村)	本年	10/1	4/22	81.8	8.7	19.7	49.6	63.8		無マルチ
	(平年比)	(11日遅)	(7日早)	(99%)	(105%)	(97%)	(96%)	(98%)		
	平年	9/21	4/29	83.0	8.3	20.3	51.4	64.8	7/2	
	前年	9/14	4/29	81.9	8.2	20.9	53.0	69.4	6/29	
七戸町榎林(旧天間林村)	本年	10/17	4/14	82.5	7.6	17.3	52.0	61.6		グリーンマルチ
	(平年比)	(15日遅)	(10日早)	(100%)	(94%)	(83%)	(96%)	(85%)		
	平年	10/2	4/24	82.6	8.1	20.9	54.3	72.3	6/27	
	前年	9/25	4/16	84.9	6.7	20.8	61.8	101.4	6/21	
田子町日ノ沢	本年	10/1	4/12	86.5	7.2	20.0	60.9	89.8		グリーンマルチ
	(平年比)	(5日早)	(10日早)	(105%)	(84%)	(104%)	(108%)	(118%)		
	平年	10/6	4/22	82.5	8.6	19.3	56.2	76.1	6/27	
	前年	10/5	4/20	78.2	7.9	17.0	54.0	66.5	6/23	

注）①平年：野菜研究所は平成22年～令和２年の11か年の平均値
藤崎町は平成９年～令和元年の23か年の平均値（品種が福地ホワイトのため参考値）
七戸町は平成８年～令和２年（平成24年を除く）の24か年の平均値
田子町は平成14年～令和２年（黒マルチを使用した平成21年、令和２年を除く）の17か年の平均値
②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14ｇ）、藤崎町は白玉王（13～15ｇ）、七戸町は白玉王（14ｇ）、田子町は白玉王（12ｇ）
③葉数：野菜研究所は抽出葉数、藤崎町、七戸町、田子町は生葉数

（２）今後の農作業の留意点

ア　病害虫の適期防除

（ア）球の肥大促進と割れ玉の発生軽減のため、収穫時までに１枚でも多く生葉を残すよう、収穫時期に合わせた病害虫防除を徹底する。

（イ）葉枯病、黄斑病は、収穫間際に一気に広がることがあるため、早期発見・早期防除に努める。

イ　適期収穫

盤茎部（ばんけいぶ）とりん片の尻部がほぼ水平となる収穫適期に収穫できるよう、早めに試し掘りを行い確認する。なお、りん片分化期後の積算気温による収穫目安は下表のとおりである。

表－６　りん片分化期後の積算気温による収穫目安

品種	マルチ種	りん片分化期後積算気温（℃）	
		収穫始め	収穫終わり
白玉王	透明	800以上	1000以下
福地ホワイト	透明・緑	900以上	1200以下
	黒	1000以上	

注）りん片分化期後の積算気温：りん片分化期翌日から毎日の平均気温を合計したもの。最寄りのアメダスデータを用いる。

ウ　イモグサレセンチュウの防除対策

（ア）被害の拡大を防止するため、作業は種子ほ場から開始し、ほ場間を移動する際は機械等の洗浄を徹底する。

（イ）イモグサレセンチュウの発生が確認されているほ場では、りん球への進入を抑制するため、①早期収穫、②速やかな根切り、③残渣のほ場外への搬出と適正処分、④速やかな乾燥を行う。

（ウ）なお、種子用のにんにくは、イモグサレセンチュウの発生を必ず確認し、異常が見られた時は、指導機関に診断を依頼する。

［イモグサレセンチュウ被害の確認方法］

根がついたまま、20球程度を網袋に入れて１か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。

エ　適正乾燥

（ア）乾燥用の暖房機の温度設定は35℃とし、煮え症状発生防止のため、にんにく付近の温度が38℃以上にならないよう管理する。

（イ）乾燥の仕上がりは重量が７割程度に減少した頃を目安に、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

（ウ）建築用水分計を活用する場合は、重量が７割程度に減少した時の盤茎部の水分含有率10～15％を乾燥仕上がりの目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分含有率の平均値が20%以下、かつ最高値が30％未満の場合を仕上がり基準とする。

オ　乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、水分が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

２　ながいも

（１）生育状況等

ア　植付作業は、平年並の４月末頃から始まり、６月中旬に終了した。

イ　病害虫の発生はみられない。

（２）今後の農作業の留意点

ア　追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新いも長も確認して、適期に行う。

表－７　ながいもの追肥方法

<table>
<tr><th></th><th>早植栽培（頂芽付１年子）</th><th colspan="2">普通栽培</th></tr>
<tr><td rowspan="3">追肥開始時期の目安</td><td rowspan="3">・植付後60日前後
（６月下旬～７月上旬）
・新いも長は５cm 前後
・つる長は150cm 前後</td><td>種いも：子いも</td><td>種いも：切いも</td></tr>
<tr><td>・植付後45～55日頃（７月中旬頃）</td><td>・植付後55～65日頃（７月中下旬頃）</td></tr>
<tr><td colspan="2">・つる長200～220cm（ネット８分目～ネット上部到達）
※低温年では、新いも長10～15cm を目安とする。</td></tr>
<tr><td>追肥の間隔及び回数</td><td>・６月下旬から８月上旬の間に、12～14日間隔で３回</td><td colspan="2">・７月中旬から８月中旬の間に、10日程度の間隔で３回</td></tr>
<tr><td>１回当たりの追肥量</td><td colspan="3">・10ａ当たり窒素成分で５kg以内とする。</td></tr>
</table>

注）ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、１回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は３回目の追肥量を減らす。

イ　病害虫の適期防除

（ア）葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。

（イ）採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

表－８　アブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生時期の目安（月／旬）

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ幼虫	葉渋病
			発生初め	発生盛期	発生初め	発生初め
早植栽培	５／上	５／下	５／下	６／中～下	６／中	７／中
普通栽培	５／下	６／下	６／下	７／中	７／中	８／下

ウ　排水対策

（ア）大雨に備え、明きょを排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

（イ）植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

３　春夏にんじん（トンネル栽培）

（１）生育状況

ア　根長は平年をかなり下回っているものの、地上部、根径、根重は平年をやや～大幅に上回っており、生育は順調である。

イ　病害虫の発生はみられない。

表－９　春夏にんじんの生育状況（６月10日現在）

調査地点	年次	は種期（月日）	6月10日				
			葉長（cm）	葉数（枚）	根長（cm）	根径（mm）	根重（ｇ）
六戸町上吉田	本年	3/12	70.7	8.9	16.3	40.9	120.7
	(平年比)	(2日早)	(121%)	(103%)	(94%)	(110%)	(131%)
	平年	3/14	58.6	8.6	17.4	37.1	91.9
	前年	3/12	57.8	8.4	18.1	36.5	90.3

注）①平年：平成23年～令和２年の10か年の平均値

②品種：彩誉７

③前年の調査地点：六戸町犬落瀬

（２）今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、Ｍ、Ｌ級が中心になった頃に収穫する。

４　ばれいしょ

（１）生育状況

ア　草丈、茎数は平年を大幅に上回っており、生育は順調である。

イ　着らい期は平年より３日早い５月25日、開花期は平年より４日早い６月６日となった。

ウ　病害虫の発生はみられない。

表－10　ばれいしょの生育状況（６月10日現在）

調査地点	年次	植付期（月日）	萌芽期（月日）	着らい期（月日）	開花期（月日）	6月10日	
						草丈（cm）	茎数（本）
三沢市三沢	本年	3/27	5/4	5/25	6/6	76.3	3.2
	(平年比)	(10日早)	(2日早)	(3日早)	(4日早)	(121%)	(128%)
	平年	4/6	5/6	5/28	6/10	63.0	2.5
	前年	3/27	5/9	5/29	6/11	56.4	1.9

注）①平年：平成23年～令和２年の10か年の平均値

②品種：メークイン

（２）今後の農作業の留意点

ア　疫病の予防防除を徹底する。

イ　早出し栽培（マルチ栽培）では６月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の５～７日前に茎葉を刈り取るなどして、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。

ウ　日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見した場合は、ジャガイモシストセンチュウによる被害が疑われるため、指導機関に診断を依頼する。

５　ごぼう

（１）生育状況

ア　草丈は平年並で、葉数は平年を大幅に上回っており、生育は順調である。

イ　病害虫は、ほとんど発生していない。

表－11　ごぼうの生育状況（６月10日現在）

調査地点	年次	は種期（月日）	6月10日 草丈（cm）	6月10日 葉数（枚）
三沢市三沢	本年	5/1	10.6	2.2
	（平年比）	（1日遅）	（102%）	（116%）
	平年	4/30	10.4	1.9
	前年	4/24	13.3	2.4

注）①平年：平成23年～令和２年の10か年の平均値
②品種：柳川理想

（２）今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

６　メロン

（１）生育状況

ア　トンネル栽培（５月上旬定植）では、主づる長は平年をかなり上回り、主づるの葉数は平年を上回っており、生育は順調である。

イ　着果節位の開花期となっており、開花は順調である。

ウ　病害虫の発生はみられない。

表－12　メロンの生育状況（６月10日現在）

調査地点	年次	定植期（月日）	6月10日 主づる長（cm）	6月10日 主づる葉数（枚）
つがる市木造	本年	5/1	183.5	22.7
	（平年比）	（4日早）	（114%）	（104%）
	平年	5/5	160.8	21.8
	前年	5/8	155.3	21.9

注）①平年：平成26～令和２年の７か年の平均値
②品種:タカミ（台木：ダブルガードパワー）

（２）今後の農作業の留意点

ア　トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底して生育の促進を図る。特に交配期に12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。

イ　交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。

ウ　アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

7　ね　ぎ

（１）生育状況

ア　３月下旬定植、４月中旬定植ともに生育は順調である。

イ　病害虫は、べと病、ハモグリバエ類、アザミウマ類の被害が散見される。

表－13　ねぎの生育状況（６月10日現在）

調査地点	年次	は種期（月日）	定植期（月日）	6月10日 草丈（cm）	6月10日 茎径（mm）
八戸市是川	本年	11/28	3/20	71.4	20.8
	（平年比）	（44日早）	（6日早）	（102%）	（133%）
	平年	1/11	3/26	69.9	15.6
	前年	12/26	3/21	58.7	14.2
十和田市洞内	本年	2/3	4/12	62.0	12.1
	（平年比）	（13日早）	（17日早）	（146%）	（136%）
	平年	2/16	4/29	42.5	8.9
	前年	2/5	4/28	51.2	8.6

注）①平年：八戸市は平成15～令和２年の18か年の平均値
　　十和田市は平成17～令和２年の16か年の平均値
　　②品種：夏扇パワー

（２）今後の農作業の留意点

ア　草勢の維持に努め、生育に応じて適期に培土や追肥を行う。

イ　主要病害のべと病が発生しているほ場では、蔓延しないよう防除を徹底する。

ウ　ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

花　き

1　夏秋ギク

（１）生育状況

生育は順調である。病害虫は、一部でハモグリバエ類やアブラムシ類の発生がみられるものの、病害の発生はみられない。

表－14　夏秋ギクの生育状況（６月10日現在）

場　所	年次	品種名	定植期	草丈(cm)	葉数(枚)	備　考
新　郷　村	本年	精の一世	４月22日	76.8	33.7	１本仕立て
	平年	精の一世	４月18日	60.7	29.5	１本仕立て
	前年	精の一世	４月27日	63.5	27.8	１本仕立て
五所川原市	本年	岩の白扇	４月14日	63.8	16.8	２本仕立て
	平年	岩の白扇	４月13日	56.9	18.1	２本仕立て
	前年	岩の白扇	４月15日	51.3	16.0	２本仕立て

注）①平年：新郷村は平成26年～令和２年の７か年の平均値
五所川原市は平成30年～令和２年の３か年の平均値
②新郷村の生育観測ほは本年と前年、前々年以前でそれぞれ異なる農家ほ場に設置

（２）今後の作業

ア　芽かき・つぼみかき

発らいと前後して側枝（わき芽）が伸び始め、大きなつぼみの周りにも小さなつぼみができるので、品質向上のため早めに除去する。

イ　ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸長を抑えるため、発らい期～摘らい期にビーナイン顆粒水溶剤等を散布し、品質の向上に努める。

ウ　病害虫防除

多湿条件により、白さび病や灰色かび病が発生しやすくなるため、こまめに換気するとともに予防に努める。

高温乾燥条件により、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類、アザミウマ類等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

２　秋ギク

（１）今後の作業

ア　定植

（ア）10月出荷は６月下旬を目安に定植する。

（イ）土壌ｐＨの矯正及び基肥の施用は定植２週間前までに行い、土に十分なじませておく。

（ウ）初期の水分不足は生育の遅れを招くので、定植の数日前に十分かん水しておく。

（エ）移植栽培の場合は、挿し芽を定植２週間前に行い、１～２ｃｍ程度発根した苗を定植する。

イ　定植後の管理

（ア）定植後は、軽くかん水して活着を早める。

（イ）日中は25℃以上にならないように管理する。

（ウ）摘心を実施する場合は、苗が活着してから行う。

ウ　病害虫防除

夏秋ギクに準ずる。

３　トルコギキョウ

（１）生育状況

生育は順調である。病害虫は、一部でアザミウマ類による被害がみられるものの、病害の発生はみられない。

表－15　トルコギキョウの生育状況（６月10日現在）

場　所	年次	品種名	定植期	草丈(cm)	節数(節)
青 森 市	本　年	北斗星	４月10日	14.7	8.7
	前　年	北斗星	４月７日	14.2	8.8
田舎館村	本　年	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	４月19日	20.6	9.8
	前　年	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾋﾟﾝｸ	４月22日	15.5	8.8

注）平年：青森市は一昨年から品種が変更されたため、平年値なし
　　田舎館村は本年から品種が変更されたため、平年値なし

（２）今後の作業

ア　かん水

発らいまでは乾燥させないように適宜かん水し、発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。

イ　温度管理

換気や循環扇、寒冷しゃ等を活用し、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。

ウ　側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（１番花）は、早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ　病害虫防除等

今後、灰色かび病やアザミウマ類が多発しやすい時期となるので、早期発見・早期防除に努める。

チップバーンの発生しやすい品種では、必要に応じてカルシウム剤を葉面散布する。

オ　短茎開花対策

（ア）９～10月出荷の作型では、定植期が高温長日となるため、短茎で前進開花しやすいが、これを避ける方法として「短日処理」が有効である。

（イ）また、「短日処理」より処理効果はやや劣るが、処理方法が簡易な「遮光処理」がある。

（ウ）但し、品種によって効果は異なるので、詳細については指導機関に相談する。

【短日処理】

定植から30日程度、夕方５時から翌朝８時まで100％遮光資材でトンネル被覆し、９時間日長とする。

【遮光処理】

定植から30日程度、遮光率40%程度の白寒冷しゃを展張する（ハウスの内張り、外張り、どちらでもよい)。なお、曇天、雨天で低日照が続く際には、品質が低下する場合もあるので注意する。また、30日程度の遮光後は必ず寒冷しゃを除去する。

畑作・野菜・花き生産情報第４号は令和３年７月２０日発行の予定です。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合は、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中！　～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります！
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎令和３年度青森県農薬危害防止運動展開中（５月１日～８月３１日）

農薬を使用する前には必ず最新の農薬登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。また、散布の際は周囲に飛散させないよう細心の注意を払いましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート(厚さ0.03㎜以上または難透過性の資材)で被覆しましょう。

市販されている除草剤のうち、「非農耕地専用除草剤」は、農作物等の栽培管理に使用できないので、注意しましょう。

農林水産省【農薬登録情報提供システム】
https://pesticide.maff.go.jp/
(独) 農林水産消費安全技術センター【農薬登録情報・速報】
https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

１　栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
２　家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が３日以上続いている状態が必要です。
３　家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は２か月、土壌に近い野菜は４か月空けましょう。
４　農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。
※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら
→ (https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasainoeiseikannrishishinnnokouhyounitomonaukachikuhunntaiinoseisannkannrinochuuitenn.html)

◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
１　農作物共済、畑作物共済

「農作物共済」は水稲・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象として、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。

２　園芸施設共済

「園芸施設共済」はガラス室・プラスチックハウスと附帯施設、施設内農作物を対象として、災害による施設被害と農作物の損害を補償します。

なお、「園芸施設共済」は生産者部会等の集団で加入すると掛金が割引になる等、各種割引メニューがあります。

３　農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。（青色申告の実施が要件）

＜野菜のみ＞

令和３年から、「農業経営収入保険」に加入した１年目に限り、「野菜価格安定制度」との同時加入が認められました。現在、価格安定制度に加入しており、収入保険に興味のある方は、ぜひ御検討ください。

※　詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

連 絡 先　農産園芸課
稲作・畑作振興グループ
県庁内線　５０７３
直　　通　０１７－７３４－９４８０

野菜・花き振興グループ
県庁内線　５０７６
直　　通　０１７－７３４－９４８５

緊急のお願い！
新型コロナ感染拡大防止

https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html